

八戸工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	コミュニケーション II A(0206)
科目基礎情報					
科目番号	4M01	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	産業システム工学科機械システムデザインコース	対象学年	4		
開設期	春学期(1st-Q),夏学期(2nd-Q)	週時間数	1st-Q:2 2nd-Q:2		
教科書/教材	①『コミュニケーション学』(松柏社)②『理科系の作文技術』(中公新書)③『論文の教室』(NHKブックス)④『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』				
担当教員	戸田山 みどり,齋 麻子				
到達目標					
コミュニケーション能力を高める。(特にプレゼンテーション力を身につける) 小論文・研究論文を書く基本的な力を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	コミュニケーション能力を高めることができる。	コミュニケーション能力を高めることができる。	コミュニケーション能力を高めることができる。		
評価項目2	特にプレゼンテーション力を身につけることができる。	特にプレゼンテーション力を身につけることができる。	特にプレゼンテーション力を身につけることができる。		
評価項目3	小論文・研究論文を書く基本的な力を身につけることができる。	小論文・研究論文を書く基本的な力を身につけることができる。	小論文・研究論文を書く基本的な力を身につけることができる。		
学科の到達目標項目との関係					
ディプロマポリシー DP1 ○ 地域志向 ○					
教育方法等					
概要	【開講学期】春学期週4時間 グローバル化がすすむ今日、多様な文化を理解し、他者とコミュニケーションをとる必要がある。特に理科系の学生が社会に出てから必要になるコミュニケーション能力について、基礎的な理解を広げ、自分の考えを論理的に述べ、情報を収集整理し、正確に伝える力を養う。3年次よりも進路や研究論文などでの文章表現を意識し、より実践的な力を身につける。聴衆の前でプレゼンテーションを行い、限られた時間で人をひきつける力を養う。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書・テキスト・資料などを活用し、多様化する文化の様相を理解し、コミュニケーションに対して理論的アプローチをとれるようにする。</li> <li>論文執筆に必要な要約・記述・構成を理解する。</li> <li>エントリーシートや実際の入社試験などで出題される小論文を書くことで、実践的な力を高める。</li> <li>ブックレビュー(ポスター発表)を行い、プレゼンテーション力を高める。</li> </ul>				
注意点	授業時間内に記述提出する課題は必ず提出すること。また、小テストは設定された時間内で書きあげること。他者に推薦したい書籍を選び、聴衆の前で書籍の魅力を紹介すること。冬学期の論文課題設定に向けて、問題意識を高め資料収集に努めること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス/エントリーシート<準備>およびブックレビュー発表会のルール解説	提示された課題を把握できる。	
		2週	エントリーシートを書く<準備>	エントリーシートを書くためのデータ収集ができる。	
		3週	エントリーシートを書く<準備>	目的に応じたエントリーシートを書くことができる。ポスターを作成するための資料を収集できる。	
		4週	エントリーシートを書く<完成>/発表スライド作成	エントリーシートを完成させることができる。スライドを作成するための資料を収集できる。ポスターを作成できる。	
		5週	エントリーシートを書く<ふりかえり>/発表スライド作成	エントリーシートの内容を振り返ることができる。スライドを完成することができる。	
		6週	ブックレビュー発表会<練習>	ブックレビュー発表会に向けて十分に練習ができる。	
		7週	ブックレビュー発表会	ブックレビュー発表会で他者に発表意図が伝わるように発表できる。	
		8週	春学期のふりかえり	自己アピールとしてのエントリーシートが作成することができたか、また、自身の考えをプレゼンテーションを通して他者に伝えることができたかを振り返ることができる。	
	2ndQ	9週	ガイダンス(戸田山)/コミュニケーションとは何か、なぜ学ぶ必要があるのか	提示した課題を把握できる。	
		10週	コミュニケーション・モデル、コミュニケーション手段の多様性	コミュニケーションの多様性を理解できる。	
		11週	言語とコミュニケーション	言語とコミュニケーションの違いを理解できる。	
		12週	言語と文化	言語と文化の関係性を理解できる。	
		13週	非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションについて理解できる。	
		14週	コミュニケーションのコンテキスト	コミュニケーションのコンテキストについて理解できる。	
		15週	科学・技術とコミュニケーション	科学・技術とコミュニケーションの関係性を理解できる。	

		16週	まとめと試験	夏学期で学んだ内容が理解できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	前5
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前2,前3,前4
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前2,前3,前4
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前2,前3,前4
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前3,前4,前6,前7,前8
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前3,前4
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前2,前3,前4
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前1,前2,前3,前4,前6,前7,前8
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前2,前3,前4,前6,前7,前8
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前5,前6,前7,前8
	課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前5			
	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	3	前1,前3,前4
				実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	3	前3,前4
				実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	3	前2,前3,前4
		技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3	前2,前3,前4
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前2,前3,前4
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	3	前2,前3,前4
				技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	前2,前3,前4
技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。				3	前2,前3,前4	
情報リテラシー	情報リテラシー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	3	前2,前3,前4		
グローバリゼーション・異文化多文化理解	グローバリゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3			
		様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3			
		異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3			
		それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3			
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	前2,前3,前4,前5
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	前2,前3,前4
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	前2,前3,前4
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	前5,前6,前7,前8
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	前5,前6,前7,前8
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	前5,前6,前7,前8
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	前5,前6,前7,前8
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	前5,前6,前7,前8

			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	前2,前3,前4
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	前2,前3,前4
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	前2,前3,前4
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	前2,前3,前4
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	前2,前3,前4
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	前2,前3,前4,前6,前7,前8
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	前2,前3,前4,前6,前7,前8
			複数の情報を整理・構造化できる。	3	前2,前3,前4,前6,前7,前8
			特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	前3,前4,前6,前7,前8
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	前2,前3,前4
			グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	前3,前4,前6,前7,前8
			どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	前5,前6,前7,前8
			適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	前3,前4,前6,前7,前8
			事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前8
			結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	前3,前4,前5,前6,前7,前8
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	前3,前4
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	前5
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	前2,前3,前4
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	前2,前3,前4,前6,前7,前8
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	前2,前3,前4,前6,前7,前8
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	2	
			公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	
			要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	2	
			課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	2	前2,前3,前4
			提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	2	前2,前3,前4
			経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	2	前2,前3,前4

評価割合

	試験	発表	課題提出	合計
総合評価割合	40	10	50	100
基礎的能力	40	10	50	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0